

リスクリングに関する青森県企業の意識調査（2024 年）

リスクリングに取り組んでいる企業は 4.9%にとどまる

～ 時間や人材などリソース不足が課題に ～

人手不足や賃上げ機運も高まるなか、「人への投資」による生産性向上は、企業経営にとって極めて重要なテーマと言える。賃上げ原資を確保するためには、1人当たりの労働生産性を高めることが必須なのは言うまでもない。

こうした中で注目されているのがリスクリングとなる。リスクリングとは「新しい職業に就くために、あるいは今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する/させること」であり、世界経済フォーラムにおいては 2018 年から 3 年連続でリスクリングセッションが開催された。日本では「骨太の方針」に盛り込まれ、2022 年に岸田前首相がリスクリング支援として 5 年間で 1 兆円を投じると表明したことを皮切りに、政府も助成金などあらゆる支援策を積極的に講じている。石破首相の所信表明演説でもその重要性が触れられるなど、近年はより一層注目度が高まっている。

そこで、帝国データバンク青森支店では、リスクリングに対する企業の取り組み状況やその内容、課題について調査を実施した。

調査結果（要旨）

1. リスクリングに「取り組んでいる」企業は 4.9%、今後「取り組みたいと思う」企業は 18.3%となり、リスクリングに「積極的」な意欲を示した企業は 23.2%にとどまった。
2. リスクリングの取り組み内容、「eラーニング、オンライン学習サービスなどの活用」が 52.6%で最も高く、「経営層による新しいスキルの学習、把握」も 42.1%となり高水準で続いた
3. リスクリングに取り組む課題としては、時間や人材、費用などのリソース不足が浮き彫りに

■ 調査期間は 2024 年 10 月 18 日～10 月 31 日。調査対象は青森県内企業 188 社、有効回答企業数は 82 社（回答率 43.6%）

株式会社帝国データバンク 青森支店

【問い合わせ先】 徳永博一 TEL 017-776-5048 FAX 017-723-4414

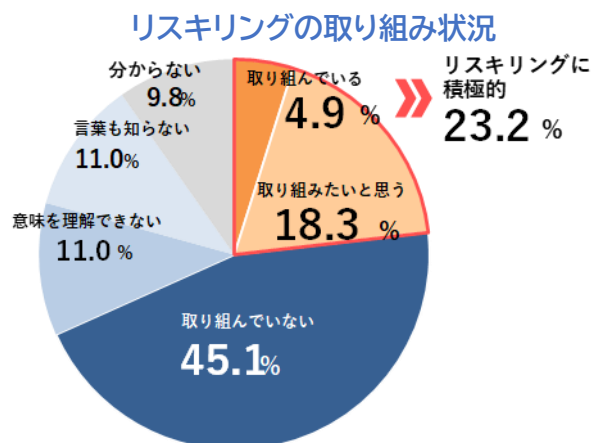
当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

1. リスクリングに取り組んでいる企業は 4.9%

リスクリングに関する取り組み状況について尋ねたところ、「取り組んでいる」と回答した企業は 4.9%にとどまった。また、今後に意欲的な「取り組みたいと思う」は 18.3%となり、合計した「リスクリングに積極的」である割合は 23.2%という結果だった。

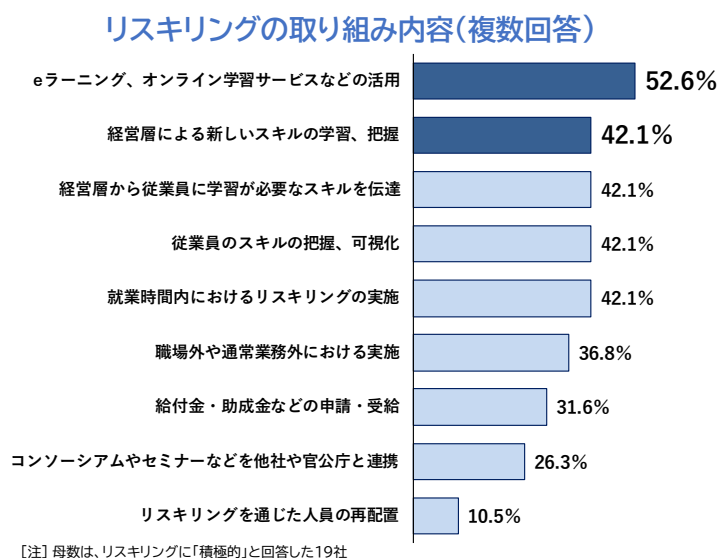
一方、「取り組んでいない」は 45.1%にのぼり、半数近くが消極的である現状が浮き彫りとなった。加えて「意味を理解できない」（11.0%）、「言葉も知らない」（11.0%）がそれぞれ約 1 割にのぼっており、現時点でリスクリングへの取り組みは十分とはいえない状態が認められる。



2. リスクリングの取り組み内容、オンラインツールの活用や経営層が自らアクションを起こす割合が高い

リスクリングに「積極的」（取り組んでいる/取り組みたいと思う）な企業に対して、その内容を尋ねたところ、「e ラーニング、オンライン学習サービスなどの活用」が 52.6%で最も高かった。

次いで「経営層による新しいスキルの学習、把握」（42.1%）が上位となり、オンラインツールの活用が半数近くにのぼった。



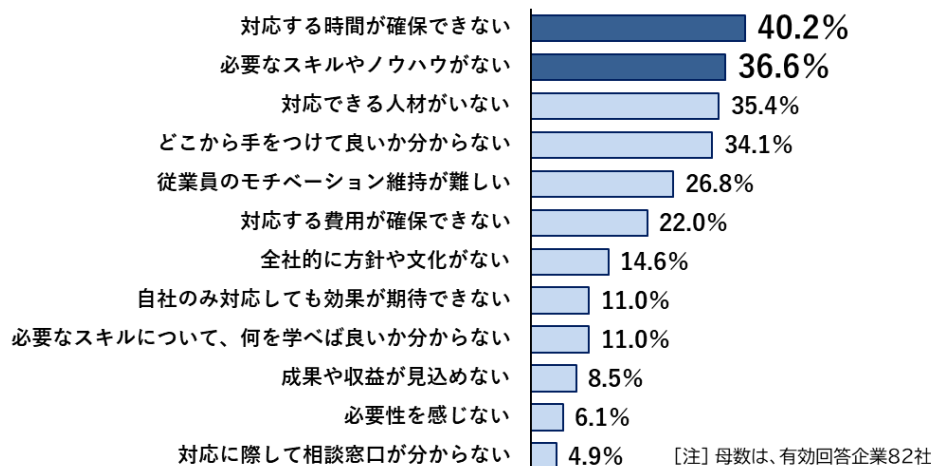
3. リスクリングに対する課題は時間・人材の確保が上位に

リスクリングに取り組む上での課題について尋ねたところ、「対応する時間が確保できない」（40.2%）、「必要なノウハウがない」（36.6%）が特に高かった。

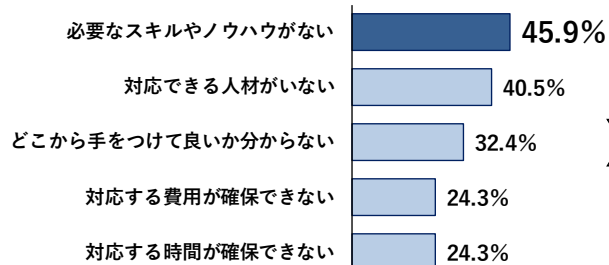
また、「取り組んでいない」企業と「取り組んでいる」企業それぞれにおける課題を分析すると、

「取り組んでいない」企業においては時間・人材・ノウハウ・費用などのリソース不足が大きな課題となっていた。

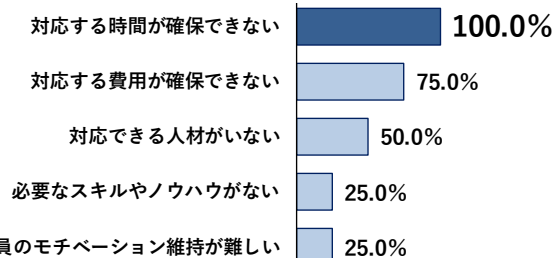
リスキリングの取り組む際の課題(複数回答)



<リスキリングに取り組んでいない>



<リスキリングに取り組んでいる>



今後の見通し : リーダーの推進力が欠かせないリスキリング

本件において政府が掲げている「人への投資」の大本命ともいえるリスキリングに取り組んでいる企業は、4.9%とごく一部にとどまっていることが判明した。取り組んでいない企業では、時間や人材などのリソース確保が難しく、取り組んでいる企業においても時間の確保が大きな課題となっている現状が浮き彫りとなった。

通常業務が多忙であるなか、優先順位などもあって、「どうしても時間の確保は難しい」との声は多く聞かれる。ただ生産性向上が求められ、デジタル化も進むなかでリスキリングに取り組まないリスクにも目を向ける必要はある。中小企業の本質的な強みは、経営陣を含めて人そのものであることが多い。環境の変化に適応できる人材を育てていくことができるかは、企業の将来を大きく左右する要素となる。リソースの確保といった課題に対しては、経営者などのリーダーシップなくして進展は期待できず、まさにリーダーの推進力が必要な状況と言えよう。